

計画を策定する背景と目的

背景・目的 公共施設の老朽化が進行し、補修に伴う**維持管理費用の増大が懸念**されるため、トンネルについても、従来の**事後保全型管理を予防保全型管理へ転換**することで**安全性の確保と財政負担の軽減・平準化**を図ります。

対象施設の現状

対象 本計画は、以下の3施設を対象とします。

2号トンネル

供用開始：昭和9年（1934年）
交差条件：区道



千駄ヶ谷トンネル

供用開始：昭和39年（1964年）
交差条件：民地



本町トンネル

供用開始：昭和50年（1975年）
交差条件：都道



現状 点検の結果、3施設とも**健全性Ⅱ**（予防保全段階）であり、**大規模な補修は必要ないもの**の今後の点検結果に応じ、**予防保全対策**（ひびわれ補修など）**を実施すべき段階**にあります。

点検の結果



健全性の区分

I	健全
II	予防保全段階
III	早期措置段階
IV	緊急措置段階

↑ 良い
↓ 悪い

予防保全型管理への転換に向けた対応方針

方針1

安全性を第一とした、耐震性能の把握と耐久性の確保

耐震基準の見直し等への適切な対応

【耐震補強事例】



方針2

点検による健全性の把握と適切な補修（予防保全対策）による劣化の抑制

【点検の種類】

日常点検 : 1年に1回程度、渋谷区職員にて実施
定期点検 : 5年に1回、有資格者にて実施

【補修対策事例】



方針3

予防保全型管理への転換に向けた計画の着実な実施

・当面の対応 ⇒ **日常点検は継続的に実施**

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
2号トンネル	猿楽橋等更新事業にて更新を予定					初回点検		定期点検		
千駄ヶ谷トンネル		定期点検	耐震性能の把握・必要に応じた耐震補強設計						必要に応じた耐震補強工事	
本町トンネル										千駄ヶ谷トンネル対策後、耐久性の確保に着手

※ 千駄ヶ谷トンネルは、供用開始50年以上を経過した施設のため、耐震性能が不足していると想定

※ 3施設とも、点検結果に応じた予防保全対策は適宜検討

計画による効果

コスト削減効果（30年間）

